

備える 手話で筆記で

明石市 聴覚障害者ら40人



聴覚障害者に要約筆記で避難に関する情報を伝える支援者ら(明石市立総合福祉センターで)

明石市は15日、聴覚障害者を対象にした初めての防災訓練を市立総合福祉センター(貴崎)で開き、障害者10人と手話通訳、要約筆記の支援者ら計約40人が参加した。

訓練は、集会所で会議中に地震が起きた想定で実施。自治会役員にふんした市職員3人が要約筆記者らを通じて、聴覚障害者に「机

の下に隠れて」などと指示。避難所と見立てた多目的体育室まで、頭部をかばいながら走りながら移動した。

訓練後、参加者からは、「災害時に支援者がいない場合や県外で被災した場合、どうしたらいいのか」と不安の声が相次いだ。市は「今後の防災対策に役立てたい」と話した。